

平成 22 年度 「すべての会計」 が 「決算認定」 される！

第 3 回 市議会 9 月定例会、予算決算特別委員会におきまして、平成 23 年度補正予算審査及び、平成 22 年度「すべての会計」に対する「決算認定」の審査が行われました。その結果、補正予算案は可決され、すべての会計の決算認定も認められました。監査委員から提出された「決算審査意見書」の「むすび」の文章から抜粋と「決算参考資料」にある一部を掲載しまして、今回の報告とさせていただきます。

平成 22 年度、市決算統計において、実質単年度収支は 10 億 1,172 万円 (平成 21 年度 6 億 2,018 万円) の黒字となった。2 年連続で黒字となり、財政調整基金及び減債基金残高もほぼ合併時の水準に回復した。一般会計での歳入総額は 265 億 1,714 万円で、自主財源 80 億 4,770 万円 (30.3%) に対し、依存財源は 184 億 6,944 万円 (69.7%) であり、前年度と比較して自主財源が減少し、年々依存財源への依存度が高まっている。歳出では、一般会計から特別会計への繰出額は 23 億 5,274 万円、企業会計への繰出額は 5 億 3,533 万円で、繰出金総額が 28 億 8,808 万円となり、一般会計の歳出総額の 11.2% を占め、依然として高い水準にあり一般会計を大きく圧迫している。

主要財政指標について、経常収支比率が年々悪化傾向にあったが、平成 21 年度と 22 年度は改善された。前年度に続き一般会計の決算が良好であったのは、国の緊急経済対策により臨時的・一時的な歳入が増加したからである。しかし一方で、財政収入額の減少で、自主財源額が減少し、財政力指数は低下して実質収支比率は増加している。このことは、2 年間の良好な決算の裏で財政が悪化の傾向にあることを示唆している。

特別会計では、8 会計の連結実質収支は 7 億 2,185 万円の黒字となっている。しかしながら、国民健康保険特別会計や介護保険特別会計では、基金等の取り崩しによる繰入金が増加しており、2 つの会計の財政状況は逼迫している。

企業会計では、水道事業会計の総収益は 17 億 1,062 万円、総費用は 16 億 1,230 万円で、純利益が 9,832 万円。水道会計には 12 億 6,445 万円の現金預金があり、留保資金は平成 23 年度から始まった県営志摩水道との統合・一元化による施設の維持管理等に備えるための検討をする必要がある。病院事業会計の事業収益は 16 億 2,401 万円、事業費用は 16 億 4,607 万円であるが、繰入金を除いた 22 年度純利益では、マイナス 4 億 7,988 万円である。一般会計から 5 億 3,340 万円を繰入しており、多額の繰入を毎年、行わない限り、病院経営の維持は難しい状況が続いている。

平成 21 年に策定された「志摩市財政計画」によれば、平成 31 年には経常収支比率が 100% を超え、財政調整基金は底をつくとなっている。「志摩市財政健全化アクションプログラム」を確実に実行したとしても、平成 31 年には非常に厳しい財政状況におちいるのである。

今後は、単年度中心の短期的視点だけでなく、**長期的な視点**を持って継続的で安定的な財源確保に努め、抜本的な行政改革に取り組みなければならない。また、市民の理解と協力を得ながら諸施策を遂行するには、分かりやすい**財政情報の開示**を積極的に推進し、職員はもちろん市民をも巻き込んだ幅広い論議が展開されることを望む。このように「決算審査意見書」で述べられています。



平成 22 年度「代表監査委員」が指摘した決算のポイント！

- ① プラス面 ・実質単年度収支が 2 年連続黒字 (H21+6,2 億円~H22+10,1 億円)
- ② プラス面 ・経常収支比率が改善した (H21=88.7% ~ H22=85.9%)
- ③ マイナス面 ・自主財源額減少 (H20=91 億円~H21=86 億円~H22=80 億円)
・財政力指数低下 (H20=0.52% ~ H21=0.50% ~ H22=0.48%)

今、注目されている自治体「決算認定」の重要性！

私たち議員は、年に数回、自治体議員研修会に参加し、地方自治が専門の先生方の講義を受講します。ここ一二年、「地方議会と議員の役割」について研修する機会がよくあります。議会での議員の役割・あり方について厳しく指摘され、今後の取り組みについて注意とか指導を受けるわけです。その中で、議会が行う「決算認定」とは「予算審査」と比較して何倍もの重要性があるということを勉強しました。「決算認定」で 1 年間の実績・結果を正確に把握し、正しい評価・判断を行えば、今後の有効な「予算編成・予算審査」に必ず、つながるのだということです。「絵にかいた餅の話より、今ある餅の中身を知りなさい」この言葉を忘れません。

区分	年度	平成 21 年度		平成 20 年度		
	志摩市	志摩市	県平均値	志摩市	県平均値	
徴収率	現年度分 滞納分含む	77.7%	76.9%	91.8%	77.0%	92.3%
	うち現年度分 では	95.7%	95.3%	97.7%	95.1%	97.8%
	県内での 順位	未確定	県下 29 市町で 29 位		県下 29 市町で 29 位	

区分	年度	平成 22 年度	平成 21 年度	平成 20 年度
標準財政規模		163億3,802万円	159億7,294万円	154億5,847万円
基準財政需要額		110億6,421万円	112億5,064万円	110億3,104万円
基準財政収入額		52億1,009万円	54億2,539万円	56億3,733万円
財政力指数		0.48%	0.50%	0.52%
実質収支比率		3.63%	3.07%	3.04%
経常収支比率		85.9%	88.7%	91.6%
実質公債費比率		12.2%	12.6%	12.3%

区分	年度	平成 22 年度	平成 21 年度	平成 20 年度
一般会計		15億9,324万円	16億8,788万円	17億9,366万円
特別会計		9億5,886万円	9億3,014万円	8億8,871万円
企業会計		4億 863万円	4億5,550万円	4億7,815万円
合計		29億6,074万円	30億7,352万円	31億6,052万円

区分	年度	平成 22 年度	平成 21 年度	平成 20 年度
一般会計		1億3,665万円	1億6,301万円	1億6,661万円
特別会計		2,202万円	1,859万円	2,469万円
企業会計		2,430万円	0円	4,754万円
合計		1億8,297万円	1億8,161万円	2億3,885万円

会計別	平成 22 年度末起債残高
一般会計	294億2,468万円
特別会計	55億4,274万円
企業会計	42億4,124万円
鳥羽志勢広域連合(うち志摩市分)	19億8,454万円
志摩広域消防組合(うち志摩市分)	1億6,518万円
志摩広域行政組合(うち志摩市分)	2億 18万円
伊勢地域農業共済事業組合(うち志摩市分)	0円
起債総残高合計	415億5,856万円

※起債とは、これまでの事業で使った借財資金のことで一般の家庭でいう借金のことです。

市民一人当たりの起債残高 = $\frac{415 \text{ 億 } 5,856 \text{ 万円}}{\text{志摩市人口 } 57,020 \text{ 人}} = 72 \text{ 万 } 8,800 \text{ 円}$ です。